

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町 10 番地

TEL: 075-211-7277

FAX: 075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

2026 年度会員のつどいのご案内

日頃より総合社会福祉研究所の諸活動にご協力をたまわり、ありがとうございます。総合社会福祉研究所・2026 年度の会員のつどいを下記の通り開催いたします。会員のみなさまには、案内文と議案書をお届けいたします。参加いただける方は、下記の QR コードからお申し込みをお願いします。

日時：2026 年 8 月 29 日（土）10：15～11：45

会場：大谷大学 K101

会場は、同日 13 時から開催される研究行交流集会全体会と同じ会場です。

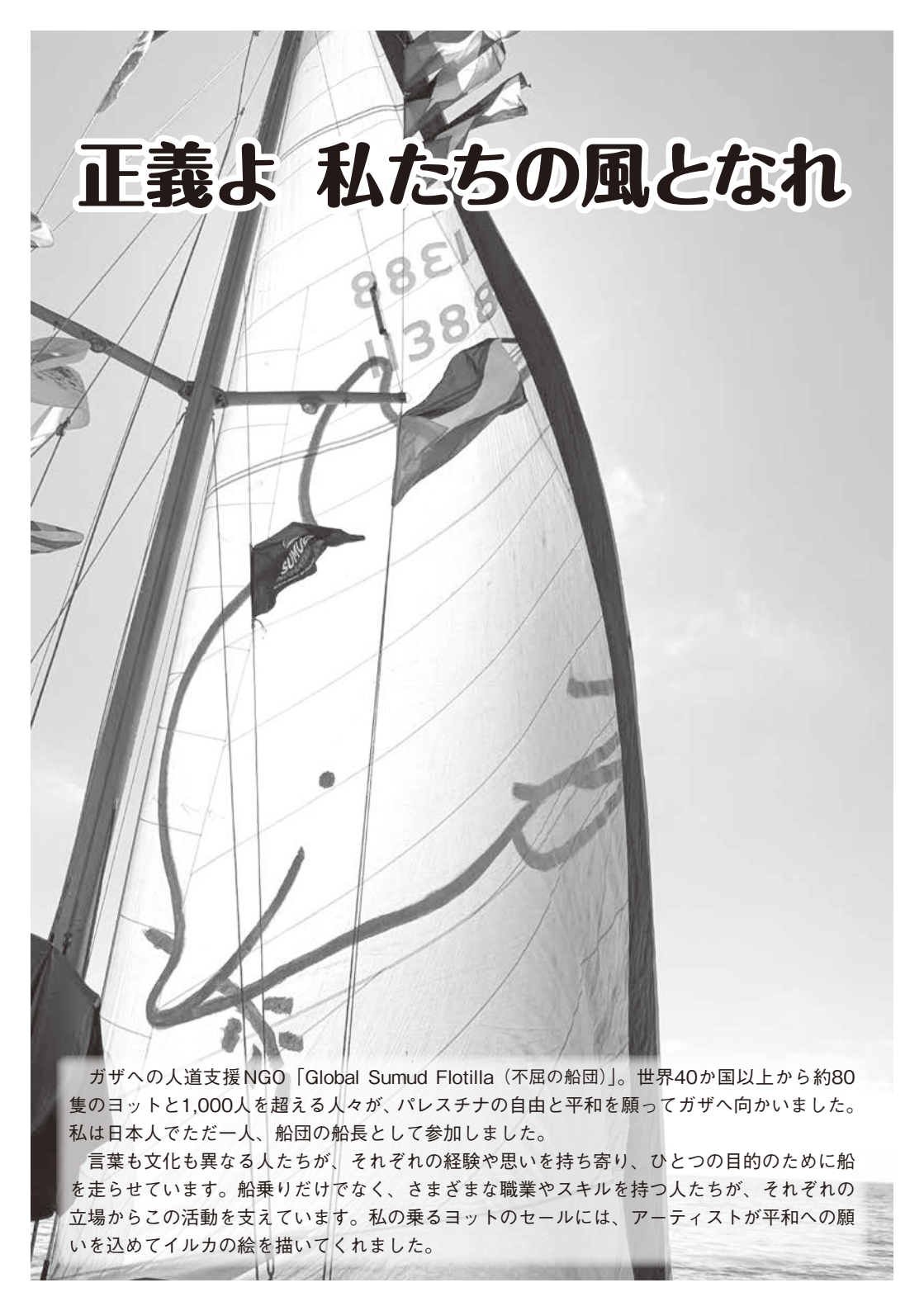
〈申込・問合せ〉総合社会福祉研究所
〒 543-0055 大阪市天王寺区悲田院町 8-12

国労南近畿会館 3 階

TEL：06-6779-4894 Mail：mail@sosyaken.jp

こ
ち
ら
か
ら
参
加
申
込
は





正義よ 私たちの風となれ

ガザへの人道支援NGO「Global Sumud Flotilla（不屈の船団）」。世界40か国以上から約80隻のヨットと1,000人を超える人々が、パレスチナの自由と平和を願ってガザへ向かいました。私は日本人でただ一人、船団の船長として参加しました。

言葉も文化も異なる人たちが、それぞれの経験や思いを持ち寄り、ひとつの目的のために船を走らせています。船乗りだけでなく、さまざまな職業やスキルを持つ人たちが、それぞれの立場からこの活動を支えています。私の乗るヨットのセールには、アーティストが平和への願いを込めてイルカの絵を描いてくれました。



船団は、ここイタリア・シシリー島を拠点に半年以上前から準備をすすめてきました。2026年4月の出航をめざし、ヨーロッパじゅうから集まった中古ヨットを修理し、長距離航海に耐えられるよう装備を補強。その後、バルセロナを出航したスペインチームと合流しました。

左から2人めが武本さん



今回の私のミッションは、数少ない長期航海の経験をもつ船長として、各国から集まった参加者（上の写真）に船長やクルーとして必要な知識や技術を指導することでした。下の写真は、地中海を航海しながら、航海術やヨットの操船技術を実践的に教えているようすです。こうした訓練を重ね、いよいよ全船団でガザをめざして出航しました。



ところが、航海4日目の夜、ギリシャ沖の公海上でイスラエル軍による襲撃を受けました。この海域にいた約60隻の船のうち22隻が拿捕され、約170人が拘束されました。拘束された人々にはげしい暴行や拷問を受け、3日後に解放されました。私はかろうじてギリシャ領海内まで避難することができましたが、その後、再編成してガザへ向かった残りの船もすべて拿捕され、約450人の参加者が拘束されました。ここでもはげしい拷問を受けて、一部の女性は性的暴行も受けました。

私は日程上の都合で途中下船をしたため、2度目の襲撃には遭遇せず、無事に帰国することができました。現在は各地で、このミッションを通して見聞きしたことを報告し、イスラエルによるパレスチナ危機の実態を知り、理解を深めてもらうための活動をつづけています。

(写真・文 プロダイバー／環境活動家 武本 匡弘)

【ひろばトーク】

戦場のリアルと戦争する国のリアルを考え、平和をつくりたい

レイチェル・クラーク 6

福祉のひろば

2026年9月号

●特集● 地域で暮らしつづけることを支える～司法・福祉の現場から～

司法と福祉をつなぐ地域生活定着支援センターの実践

西出一美・三分一直瑠 10

全国に7か所しかない女性の更生保護施設から見えること

荒木 浩子 16

子どもの権利を守り、自立のための根を張れるように

森本志磨子 22

●サブ特集● NPT再検討会議ニューヨーク行動レポート! (後編)

核兵器をなくそう! 草の根の希望が集う場所・国連 柿本 礼子 29

核兵器廃絶をすすめる力 田村 萌 34

現地でしか感じられない雰囲気を感じて 大川 彩子 38

●トピックス●

「コスモスマンスリーチャンネル」で

コミュニケーションの可能性をひろげたい 秋保 勇将 42

垣内國光さんを偲んで 46

●連載●

海の中から地球が見える

第5回 もっと遠くの海へ行ってみる 武本 匡弘 50

『福祉のひろば』とわたし (6)

学び、実践し、発信する 海老 一郎 52

政治を見る目 長澤 高明 54

第6回 天皇という制度について補助線を引いて考える

世界と交流する平和の船に乗ってみた! (南半球編)

第6回 ウルグアイの女性支援団体「セプローテ」

根津眞澄+オット 56

世界のソーシャルアクション!

社会運動が切り拓いた「正義」と「暮らし」の変革 黄 盈豪 60

JOB & ACTION 全国福祉保育労働組合 (66)

福祉労働者の権利を守って40年 (上) 62

私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (66)

人に育てられ、仲間と歩み、未来へ 小早川淳子 64

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (86) 水野阿修羅 66

育つ風景 その子のこだわりとつきあう 清水 玲子 68

映画案内 『大いなる幻影』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 72

大原孫三郎・總一郎・山川均・菊栄・石井十次 (その11 大震災と虐殺)

似らずとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

ワールドカップを描いてみMessi ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

モトコの66歳えぶりでい 川口モトコ 77

●表紙の絵●

神門やす子



みんなのポスト 48/福祉の動き 78/今月の本棚 81

●グラビア● 正義よ 私たちの風となれ

戦場のリアルと戦争する国のリアルを考え、平和をつくりたい

ベテランズ・フォー・ピース（平和を求める退役軍人の会）

レイチェル・クラーク

ベテランズ・フォー・ピース（VFP）は、アメリカで従軍経験のある元軍人とその家族らによって一九八五年に結成されました。当時、ベトナム戦争帰還兵のPTSDが社会問題となり、その苦しみを何とかしたいと帰還兵が集まるコーヒーハウスが全国にできました。苦しい気持ちを絵や詩などで表現して緩和していく活動がはじまるなか、政府の戦争政策に抗議する活動も生まれ、それをきっかけに組織がつけられました。

私は、ニューヨークを拠点に通訳やコンサルタントの仕事をしています。二〇一〇年、核不拡散条約（NPT）再検討会議にいられた日本の被爆者団体の通訳をする機会があり、「この仕事は天職だ」と思いました。単に言葉を訳すだけでなく、そこに社会的意義があることに充実感がありました。翌年に福島第一原発爆発事故が起き、その後毎月のように、核や放射能関連のシンポジウムや企画がニューヨークでたくさん開催され、そこに通訳と呼ばれました。自分自身も関連ニュースを追いかけるなど学びを深めるなかで自信がつき、二〇一二年にフリーランスとして独立しました。

二〇一四年、当時の稲嶺進名護市長や玉城デニー参議院議員が辺野古への米軍新基地建設反対の意思を伝えるに訪米されたさいに通訳をしたことがきっかけで、沖縄の米軍基地問題に関心をもち、同年一月に沖縄を訪問しました。キャンプ・シュワブ前の座り込みや高江でヘリパッド建設への抗議行動に参加させてもらい、沖縄の問題の本質を知りました。翌年、アメリカで名護市が主催する沖縄の米軍基地問題を説明するワークショップの企画運営を手伝い、そこでVFPの人と出会い、二〇一五年十二月、今度はVFPのメンバーとしてふたたび沖縄を訪れ、米軍基地への抗議行動に参加しました。



レイチェル・クラーク

ニューヨーク在住、通訳、コンサルタント。2010年から日英通訳をはじめ、2012年からフリーとなり核軍縮、人権問題の分野でさまざまな国連の会議関連の通訳として活動。ベテランズ・フォー・ピース（VFP）の終身会員。VFPは日本やロシアなど海外支部も含め、全世界に140支部、8000人の会員を擁する国際平和団体であり、国連NGOに認定されている。

またこの年、日本の新聞社の戦後七〇年企画に通訳としてかかる機会をいただき、帰還兵やそのPTSDの治療に当たっている精神科医などの話を聞くなかで、私は「軍人さんたちも戦争の犠牲者だったんだ」という実感を得ました。二〇一五年は、私の人生を大きく変える年となりました。これ以降毎年、VFPの会員として日本を訪れるピース・スピーキング・ツアーを開催しています。

VFPとして沖縄に行ったとき、その活動を沖縄の各種メディアは取り上げてくださいましたが、本土のメディアには無視されました。でも、沖縄の問題は、「日本国憲法第九条よりも日米安全保障条約の日米地位協定が上にある」というひずみを沖縄に押しつけているということであり、沖縄問題ではなく日米問題であり日本全体の問題です。なかなか言うことを聞かないロシア、イラン、中国に直接ちよっかいを出すのではなく、そのまわりの国をコントロールするのがアメリカのやり方で、それで一番成功したのが日本です。たとえば、カリフォルニア州の面積と日本の国土面積はほぼ同じなのですが、カリフォルニア州には米軍基地が三二か所あります。いっぽう、日本には、米軍基地だけで一二〇か所、自衛隊基地は二三七か所あり、日米あわせて約三五〇か所、カリフォルニア州の一〇倍もの軍事施設があるのです。この数字からも、日本がアメリカの盾に使われていること、米中戦争の代理のコマにされていることがわかんと思います。ところが、日本の教育では、戦中・戦後の近代歴史をきちんと学ばずに社会に出てしまします。日本の市民は日本列島全体がアメリカの軍事基地と化している現実をしつかり理解してから、憲法九条についてどうするのかという議論をしないといけないと思います。

司法と福祉をつなぐ

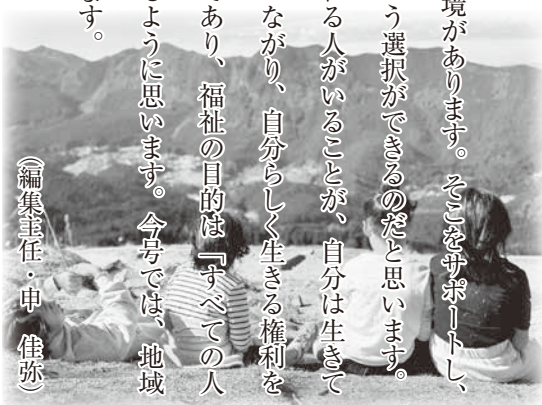
二〇二五年六月一日、懲役刑（労務作業の義務あり）および禁固刑（労務作業の義務なし）を廃止して一本化し、「拘禁刑」を創設する刑法等の一部を改正する法律が施行されました。刑務作業を義務として一律に課すのではなく、受刑者の更生や社会復帰に必要な作業や指導を、受刑者の事情をふまえて柔軟におこなうことを目的とした改正で、『令和七年版犯罪白書』のはしがきには、「この目的の実現のため、刑事施設において、個々の受刑者の特性に応じた矯正処遇や社会復帰支援の充実等を図っている」とあります。

改正の背景には、長期的には刑事事件の検挙人数は減少傾向にあるいっぽう、再犯率は約五〇%と高止まりしており、刑務所や少年院などの矯正施設を出所したあとの「再犯防止」が大きな課題になっていることがあります。再犯防止のためには、矯正施設での処遇と出所後の支援の連携が不可欠であり、今回の改正も、司法と福祉の連携の流れのなかで実施されたものです。

福祉の現場においても、「障害のあるなかまが施設から飛び出してしまい、探し回ったら留守の民家に

入ってくつろいでいた」というエピソードや、「お店で万引きしてしまう利用者さんの支援を試行錯誤しながら寄り添っている」というエピソードを耳にすることがあります。警察で保護していると連絡があったり、犯罪に巻き込まれてしまったり、あるいは加害者になってしまうことは、生きづらさや生活困難を抱える高齢者、障害のある人、そして子どもたちの暮らしを支えることを仕事とする福祉の世界では、決してめずらしいことではありません。そうした生きづらさを軽減するためにさまざまな制度を活用したり、あるいはあたらしい制度・施策をつくったり、まわりの環境を整えることで、その人がその人らしく、地域のなかで暮らしつづけられることを支えるのが福祉の仕事です。

犯罪や非行の背景にも、多くの場合、そこに至る生きづらさや生活環境があります。そこをサポートし、生活基盤をととのえていくことで、犯罪をしなくても生きていけるという選択ができるのだと思います。人に大切にされ、尊重され、困りごとと一緒に解決しようとしてくれる人がいることが、自分は生きていてもいいという自己肯定感や、ここで生きていきたいと思える力につながり、自分らしく生きる権利を保障することにつながるのだと思います。司法の目的は「再犯防止」であり、福祉の目的は「すべての人の人権を保障すること」ですが、そのために必要なことは共通しているように思います。今号では、地域で暮らし続けることを支える実践を、司法と福祉から考えたいと思います。



（編集主任・串 佳弥）